



國家圖書館編

東亞同文書院 中國調查手稿叢刊

181

國家圖書館出版社

六月三日

六月四日



國家出版基金項目
NATIONAL PUBLICATION FOUNDATION

國家圖書館
編

東亞同文書院
中國調查手稿叢刊

181

國家圖書館出版社

第一八一冊目錄

昭和十六年（一九四一）調查報告（第三十八期生）

江蘇省昆山縣を中心とせる物資の出廻り並に統制に就いて

以江蘇省昆山縣爲中心的物資流通及管制情況 岡幸雄 瀧石彰一

昆山縣に於ける教育復興狀況

昆山縣的教育復興狀況 山谷儔

江蘇省昆山縣の縣政に就いて

關於江蘇省昆山縣的縣政 久保田太郎

南京、蘇州を中心としたる支那側學校教育に就いて

以南京、蘇州爲中心的中方學校教育 山田順造

南京、蘇州を中心とせる歐米人の教育事業復興狀況

以南京、蘇州爲中心的歐米人教育事業的復興狀況 鈴木隆康…………… 四五

鎮江縣に於ける教育復興狀況

鎮江縣的教育復興狀況 道旗林三郎…………… 五二七

鎮江金融狀況

鎮江金融狀況 鈴木信…………… 五七五

杭州市を中心とする經濟地理

以杭州市爲中心的經濟地理 新井寶雄…………… 六一三

昭和十六年度

江蘇省崑山縣を中心とせる
物資の出廻り並に統制に就いて

第九班

岡幸雄

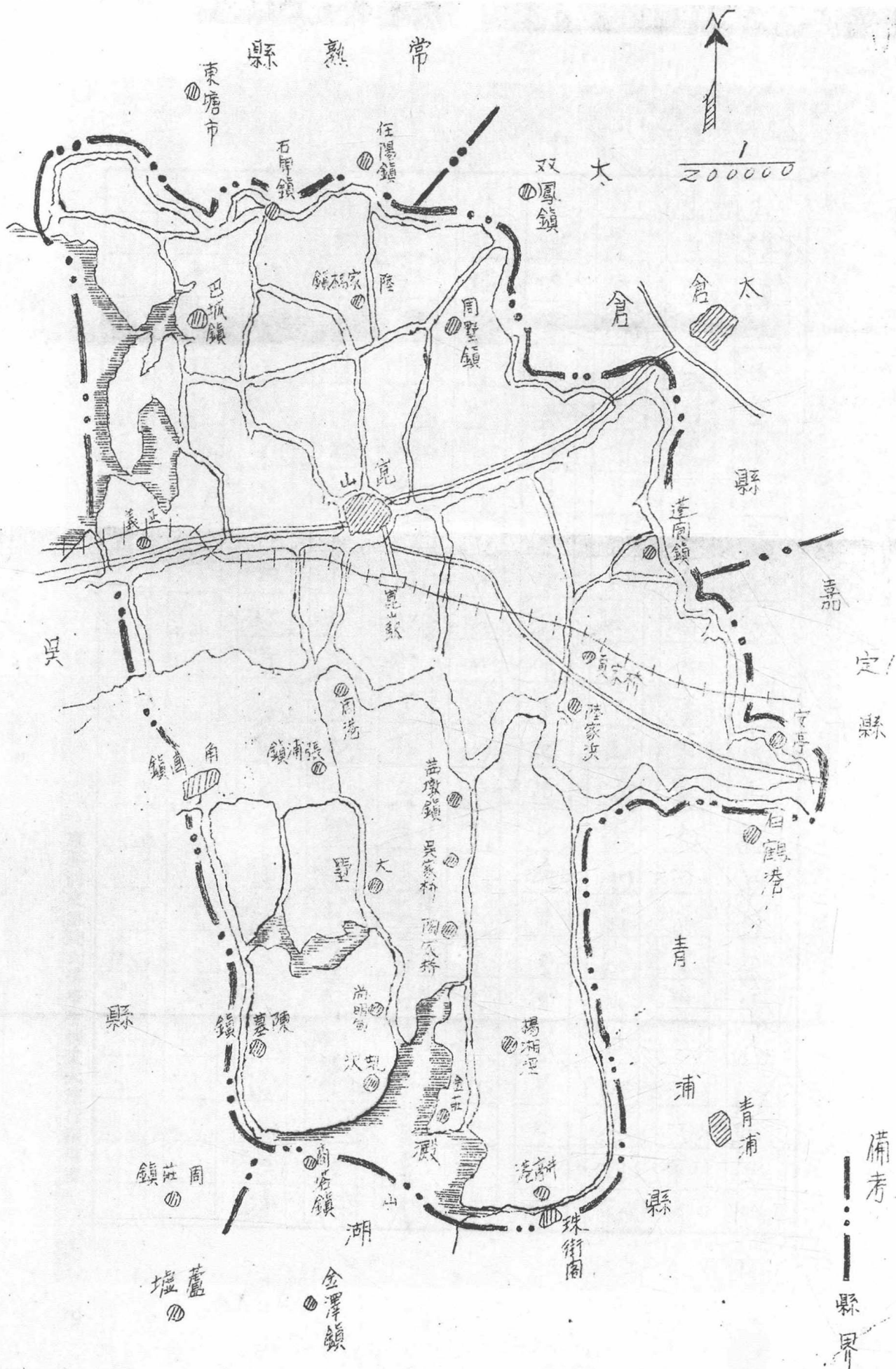
瀧石彰一

第一章	統制の必要
第二章	行政的統制方法
第三章	結語
第七章	密搬出入
第八章	概況
第九章	密搬出入方法
第十章	密搬出入商貨特別の手續
第十一章	結語

前書

全人口の少くとも四分の三を農村に有する支那は農業國として其の性格を都會よりも寧ろ農村に有する二とは自明の理である。而して、ろ農村が近代的文明の發達を實現しつゝある都會に接する場合は古來の姿と近代的の姿との混入相に興味が盡きないであらう。私達は今回、旅行に於て、かゝる農村が如何なる相相を呈しては、今更に見んとして、支那最大の近代都市上海と、そして蘇州常熟、太倉、嘉定の圓線に圍まれた崑山縣の農郷を研究し、

然	一	予	か	う	私	達	の	最	初	の	期	待	に	及	び	て	私	達	の	研	究	を	最	も
好	む	ま	つ	と	と	成	つ	た	も	の	は	炭	山	縣	の	治	安	状	態	で	あ	る	な	
炭	山	縣	は	治	安	未	だ	治	ま	ら	ず	各	村	に	不	穩	分	子	の	横	行	を	見	て
炭	山	城	を	一	歩	出	れ	ば	既	に	警	戒	を	要	す	る	か	如	き	状	態	で	あ	つ
た		な	ら	に	充	分	な	る	研	究	を	な	し	得	ら	れ	る	か	つ	た	こ	と	は	誠
に	残	念	を	す	と	で	あ	つ	た															
以	下	殊	に	報	告	せ	ら	れ	た	こ	の	を	誌	し	て	調	査	報	告	と	す	る	次	
で	あ	る																						



を	碍	碍	する	こと	が	大	である。	崑山縣	は	日	本	人	の	進	出	は
少	ない。	之	は	思	は	本	縣	は	書	く	農	村	の	子	より	或
し	き	都市	を	有	い	ない	こと	と	上	海	蘇	州	の	如	き	日
の	足	場	と	は	是	る	へ	き	都	會	を	附	近	に	有	い
り	に	接	近	し	て	お	る	た	め	で	あ	ら	う。	ハ	十	名
人	が	鉄	道	同	係	宗	教	同	係	に	於	て	有	在	す	る
係	に	於	て	付	合	ん	言	は	足	ら	ぬ。	勿	論	上	海	蘇
的	に	接	近	し	て	お	る	た	め	で	此	等	都	市	と	の
結	は	充	分	に	あ	る。					連	絡	殊	に	上	海
											と	の	連			

水	利	共	に	農	業	地	で	一	に	最	適	で	あ	る	か	ら	農	業	を	主	要	産	業	と
す	る	農	村	で	あ	る	。現	在	沿	安	の	不	安	に	も	か	、	け	ら	農	民	は		
難	々	と	家	郷	に	帰	り	来	て	。か	、	る	農	民	の	後	帰	は	農	業	の	後		
興	々	表	著	さ	し	て	現	在	は	事	業	前	と	大	差	の	無	い	状	態	と	な	っ	て
石	炭																							
商	業	は	物	資	統	制	の	存	在	し	て	言	へ	ば	不	振	で	あ	り	工	業	は	煉	炭
製	造	製	油	油	造	石	灰	製	造	等	が	小	規	模	生	産	組	織	の	も	と	に	行	け
れ	て	あ	る																					
以	下	の	重	要	生	産	業	で	あ	る	農	業	並	に	工	業	に							

ついで述べる。	①農業	概説に於いて略述し、如く本稿は農業を主眼として	氣候、地味、水利共に農業地として最適であり、米、小麦、菜種	を主産とし、その他は農産物と比較的良質なものを	得られるが、従来品種の改良、施肥方法、害虫駆除及び	技術の改善等に留意を要する。そのうち、その生産方法は	旧態依然としてある。此の点に因りては、本稿の自然的	條件が示してある。此の点から、将来の指導案に一つ	として、鋭意努力改良の方法を講ずるに、更に一段とその
---------	-----	-------------------------	-------------------------------	-------------------------	---------------------------	----------------------------	---------------------------	--------------------------	----------------------------

增收を
市
一
農村
一
一
見
一
一
一
発展を
束
一
一

あ
ら
う。

以下に主要な農作物の一覽表を擧げ、その次に如くである。

主要作物一覽表		品名	面積	作付	種子時期	收穫時期	收穫數量
米		一〇九六二	畝	四月上旬 一月中旬	九月初旬	ヨリ	約 一五〇,〇〇〇 石
小麥		三六五八二	畝	九月下旬	五月中旬		約 三五〇,〇〇〇 石
菜種		九九五七	畝	九月上旬	五月中旬		約 四〇〇,〇〇〇 石
(特務機關至滿日報二頁)							